

♪平成26年2月～平成26年3月のできごと

ソーリダーの 毎日 ヽウヾ (ムオイムオイ)

平成26年 3月 第8号

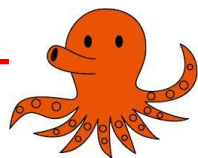
「ん～！」（口を閉じ、顎を突き出して）これは、大家さんが私にする挨拶です。カンボジアでは本当に仲が良くなると「ん～！」という謎の一言で挨拶になります。気が付けば1年9か月。この一言で挨拶できるほどの時間をカンボジアで過ごしました。時が経つのは早く、今月任期満了に伴い帰国しました。これまでおたよりに目を通してくださった皆さん、ありがとうございました。

最終号は、今年に入ってからの活動や、1年9か月クラチェ州小学校教員養成校を拠点に活動してきたことのまとめをしたいと思います。

最後の教育実習

今年に入って、2年生は卒業前最後の教育実習に行きました。実習の様子を見に行くと、元気な子どもたちと楽しそうに過ごしている学生たちの姿を発見。「子どもたちが言うことを聞かない…」と嘆いていた1年前の教育実習を思い返すと、学生たちのたくましく成長した姿に感心します。

みんなならきっといい先生になるだろうと楽しみにしています。



三原やっさ in Kratie

カンボジアは踊りが好きな人が多い国。結婚式や様々な儀式、パーティーがある度に、私も一緒に踊ってきました。今年に入り、「日本の踊りも教えて」という学生たちのリクエストがあったので、日本での勤務先・三原の伝統でもある『三原やっさ』を教えることになりました。

違う国の文化ではありながら、軽快なリズムに乗せて同じ振りを繰り返すという共通点があるカンボジアの踊りと『三原やっさ』。学生たちの楽しそうな姿を見ると踊りにも音楽や体育、図工と同じように言語や文化を超えて解り合い、楽しむことができる力があることを実感しました！



活動のまとめ

小学校の教員を目指す教員養成校で活動する中で、常に意識したことは「地域の小学校の実態に応じた上で、今後を見据えた授業を行う」ということでした。そのために、地域の実態を把握しつつ、カウンターパートとともに養成校での授業の在り方について何度も話し合い、授業改善を進めてきました。

音楽では、楽器どころか授業がない地域の小学校の実態を踏まえて、養成校では楽器に頼らず音楽が楽しめるリズム遊びや伝統唱歌の活動を取り入れました。また、楽器指導をするとしても、ただ吹くだけでなく、楽器の良さに深くかかわれるよう、これまで行っていなかった合奏なども取り入れながら、授業内容を充実させていきました。地域での音楽教室も、卒業生や地域の先生たちと協力して続けてきました。



体育では、道具や場所がなくクメール体操しかしていない地域の実態を踏まえ、養成校では道具や場所をあまり使わなくても行える運動を取り入れました。学生たちが主体的に取り組み、実践に活かせるよう、指導案作成や模擬授業の実施にも力を入れ、年間指導計画もカウンターパートと協力して新たに作成しました。また、教育実習校の先生たちを中心に、地域の中でカンボジア人同士が学び合える環境をつくれるよう研修会や巡回での支援も継続しました。

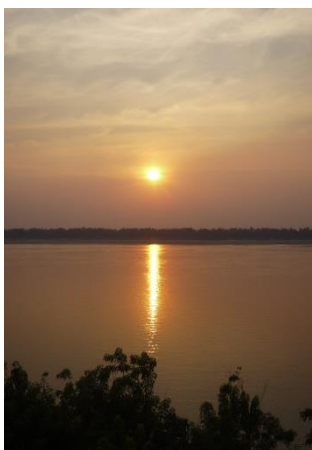
図工では、カンボジアの文化を大切にしながら、材料や道具の面で問題が生じないように配慮しながら、気軽に楽しめる活動を紹介するなど、実態に応じた指導を心がけました。



最初は言葉が通じなくて、カウンターパートと意思の疎通が図れず、悩むこともありましたが、根気よく話し合い、カンボジアの実態から理想の授業を共に目指すことができたのは何にも変えられない素晴らしい経験だったと思います。

「まだまだカンボジアで一緒に頑張りたい！」という気持ちになることもありましたが、以前よりも楽しそうに教えているカウンターパートや、意欲的に学んでいる学生の姿を見ると、外国人の自分にできることへの限界を感じ、「ここから先は彼ら自身が頑張るしかないんだ！」と前向きな気持ちになりました。今後のカンボジアの教育の行方が楽しみです。時間はかかるかもしれませんが、きっと彼ら自身の手で良い方向へ導いてくれることでしょう。

カンボジアで過ごした日々、いろいろなことがありました。楽しいことや感動することだけでなく、考えさせられることもたくさんありました。でも、その都度私を支え、助けてくれたのは、傍にいるカンボジア人の誰かでした。彼らの存在があって、無事に任期が満了できたと感じています。



開発途上国というと、マイナスなイメージもつきまといまいます。先進国よりも「できてない」「不十分」という思いを持つ人もいるかもしれません。もしかしたら、カンボジアに行く前の私もそうだったのかもしれません。でも、カンボジアで1年9か月を過ごし、辛い過去や現状にも負けず、みんなで助け合い、いつでも楽しく生活しているカンボジア人の姿からたくさんのことに気づきました。共に生活する中で多くのことを学び合えたことは、大きな収穫です。この経験を生かして、これからも日本で頑張っていこうと思います。2年間支えてくださったカンボジアと日本のみなさん、本当にありがとうございました。

អរគុណ!